図

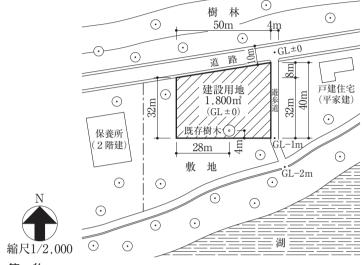
設 計 課 題 大学のセミナーハウス

計

この課題は、湖畔の景勝地において、ある大学のセミナーハウスを計画するもので ある。本施設は、恵まれた豊かな自然環境の中で、大学教育を行うとともに、課外活 動などを通じ相互の交流を深める場としても利用する。また、施設の多目的ルーム及 び多目的広場を利用して、一般市民に対して講習会やレクリエーションなどのイベン トを実施することで、様々な世代との学習や交流の場となるように計画する。

1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。この敷地の うち本施設の建設可能な建設用地は斜線で示した部分である。
- 敷地は、平坦で、道路との高低差はないが、東側の遊歩道は、湖畔に向か って下っている。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできる ものとする。
- (3) 敷地は、都市計画区域及び準都市計画区域外の区域内にあるが、景観保全 のため建築物に関して次の制限がある。
 - ① 主要な屋根は、勾配屋根とする。
- ② 建築物の高さの最高限度を10mとする。
- (4) 建設用地内にある既存樹木(高さ12m、根及び枝張り直径6m)は、現位置 に保存するものとし、この範囲内には建築物を計画してはならない。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (6) 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- (7) 地下水及び積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建築物

構造、階数等 (1)

構造種別は自由とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。

床面積の合計

床面積の合計は、1,600㎡以上、1,900㎡以下とする。 この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外 階段等は、床面積に算入しないものとする。

要求室

		すべて計画する。		
部門	室 名	特 記 事 項	床ī	面積
セミナー部門	多目的ルーム	 ・40人程度の合同ゼミや講演会などに使用する。 ・一般に開放し、イベントを開催する。 ・無柱空間とし、天井高5.0m以上とする。 ・専用倉庫(10㎡以上)を設ける。 ・多目的広場へ直接行き来できるようにする。 	約1	60 m²
	セミナー室A	・30人程度の合同ゼミなどに使用する。 ・大型スクリーンを設ける。 ・可動間仕切により2室に分割できるようにする。		80m²
	セミナー室B	・15人程度のゼミに使用する。		30 m²
	セミナー室C	・8人程度のゼミに使用する。	約	20 m²
	講師控室	・イベント参加者(約20人)が、集合できるスペースとする。 ・コインロッカーを設ける。	適	宜
	宿泊室A	・洋室(4人部屋)を5室(1室当たり約30㎡)設ける。 ・2段ベッド、洗面台を設ける。 ・和室(6人部屋)を3室(1室当たり12畳)設ける。	適	宜
宿	宿 泊 室 B 教師宿泊室	 ・踏込、押入、洗面台を設ける。 ・洋室(1人部屋)を2室設け、うち1室は車いす使用者用宿泊室を兼ねるものとする。 ・バス・トイレ・洗面ユニット付きとする。 	計約	40n
泊部	談話ラウンジ	・湖の景観を楽しめるようにする。	約	30 m²
門	浴室	・男性用、女性用として各1室設ける。 ・各浴室に脱衣室及び便所を設ける。	計約	80n
	洗 面 所 洗濯・乾燥室 給 湯 室 リネン庫	・男性用、女性用として各1室設ける。	適	宜
共用	エントランス ホ ー ル	・風除室を設ける。・吹抜けを設け、吹抜け部分に2階への主動線として階段を設ける。・吹抜け上部にトップライトを設ける。・展示スペースを設ける。	適	宜
部門	食 堂	・厨房を設ける。・テーブル、いす等を設ける。	約1	20 m²
	交流ラウンジ	・湖の景観を楽しめるようにする。	約	30 m²
	図書・資料コーナー			
	コピー室		適	宜
管理部門	事 務 室	・3人分の事務スペースを設ける。・和室6畳とし、押入を設ける。		
	管理人室職員休憩室	・流し台、バス・トイレ・洗面ユニット付きとする。・更衣室を兼ねる。	適	宜
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、 給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。		

	会	員	番	号					氏	名	受	験	地
-		-	+	-	1	1	_	_				-	
- !		- 1	1	1	1	1	- 1						
i	i	i i	i	i	i	i	i						
1	1	1	1	1	1	1	1						
	1	- 1	1	1	1	1	1						

・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

3. その他の施設等

- (1) 学生やイベント参加者を対象とした多目的広場を、次のとおり計画する。
 - ① 地上に設けるものとし、まとまったスペース(既存樹木を含めてもよい。)で 200㎡以上(ピロティ、上部に屋根等がある部分を含めてもよい。)とする。
 - 多目的ルーム、食堂及び遊歩道との動線に配慮する。
 - ③ 野外バーベキュー・パーティーなどを開催するため、テーブル、いす等を設ける。
- (2) 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者用として1台分、サービス用と して1台分を設ける。なお、施設利用者用及び職員用の駐車場は、敷地外に別 途計画されているものとする。
- 駐輪場は、施設利用者用として20台分を設ける。
- (1)~(3)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- (1) 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 湖を望む景観を、眺望として積極的に取り込んだ計画とする。
 - セミナー部門、宿泊部門、共用部門、管理部門を適切にゾーニングし、明快 な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - バリアフリー、セキュリティーに配慮する
- (2) 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性に も配慮する。
 - ② 構造種別、架構形式及びスパン割を適切に計画する。
 - 耐震性に配慮し、必要に応じて、耐力壁等を設ける。
 - ④ 部材の断面寸法を適切に計画する。
- (3) 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火・防災設備等を適切に設け、環 境負荷低減に配慮する。
 - ② 地震等の災害時においても、一定の機能を維持できるように配慮する。
 - エレベーターを適切に設ける。

求 义 \coprod .

答案用紙I及び答案用紙Iの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、 黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要 求 図 面(答案用紙 I に記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

	此 訂
図面及び縮尺	特記事項
(1) 1 階平面図	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図
兼	示又は記入する。
配置図	イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な
1/200	程度)
	口. 室名等
(2) 2 階平面図	ハ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割に応じて必
1/200	要となる構造要素(凡例の空欄に記入し、図示する。)
	ニ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース
	(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置
	ホ. 設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設け
	た場合は断面図に図示する。)
	へ. 断面図の切断位置ト. 多目的ルーム、セミナー室A, B, C、ロビー、交流
	ラウンジ、談話ラウンジ、食堂、浴室(男)、浴室(女)、
	事務室、管理人室、設備機械室の床面積
	② 宿泊室及び教師宿泊室(1)、(2)については、次のものを
	図示又は記入する。
	イ. 各宿泊室のうち代表的な1室の室内プラン及び床面積
	口、各宿泊室の出入口
	ハ. 各宿泊室の表示(宿泊室 A は A 1 ~ A 5、宿泊室 B は B
	1~B3、教師宿泊室は、教師宿泊室(1)及び(2))
	③ 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。
	イ、建築物の出入口
	ロ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。)
	ハ. 通路、植栽、ごみ置場等
	④ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。
	イ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離
	及び経路
	ロ.1階の屋根、ひさし等となる部分
(3) 断 面 図	① 切断位置は、多目的ルームを含み、建築物の全体の立体構
1/200	成及び屋根形状(勾配屋根)がわかる断面(北-南)とする。
	なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。
	② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。
	③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び
	主要な室名を記入する。
	④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びス
1/200	ラブは構造部材表の符号を明示する。
	② 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸
	法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号、
	部材及び断面寸法を追加記入する。なお、梁に鉄骨を使
	用した場合の断面寸法は、H−○×○のように記入する。

2. 面 積 表(答案用紙 I に記入)

地上1、2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、 その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- (1) 建築計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面 では表せない部分についても記述する。
 - ① 周辺の良好な景観の活用について、工夫したこと
 - ② 多目的ルームの計画について、その位置とした理由及び動線計画において工 夫したこと
 - 多目的広場(多目的ルーム、食堂及び遊歩道との関係を含む。)の計画につい て、その配置とした理由及び動線計画において工夫したこと
- (2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図 面では表せない部分についても記述する。
- ① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
- ② 多目的ルームの構造計画について、工夫したこと
- (3) 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面 では表せない部分についても記述する。
 - ① 建築物に採用した空調方式と採用した理由
 - 空調設備、給排水衛生・給湯設備及び電気設備における負荷低減のための「設 備方式・手法」及び「その具体的な負荷低減効果」について四つ記述すること
 - ③ 地震等の災害に対する設備計画について、「設備の損傷防止」、「停電」及び「断 水」の対応策を記述すること(停電や断水は3日程度を想定する。)